

# 人生の最終章 自分らしく彩る

## ホスピス施設 医療と生活を両立



家族との幸せな時間を  
心温まる場所で



序章：それぞれの生活

陽一は家で  
3カ月に1度くらい  
頻度で両親を訪ねていた

陽一の両親は  
福岡市内に老夫婦2人で  
暮らしている



両親とも孫の翔太を  
ことさらに可愛がっていた

おれ、  
相変わらず  
男前じゃのう

主な登場人物



佐藤 陽一 (55歳) 会社員  
妻と子の3人で福岡市内に居住



佐藤 良子 (53歳) パート勤務  
陽一の妻



佐藤 翔太 (25歳) 会社員  
陽一の息子



佐藤 守 (85歳) 陽一の父  
3年前に肺がん診断  
最近 転移が見つかりステージIV



佐藤 ひさえ (83歳) 陽一の母  
守と2人暮らし  
腰痛・関節痛・認知症



川崎医師 守の訪問診療医



添田 貴子  
ホスピス施設『彩の郷 福岡』の  
施設長



大木 道子  
ケアプランセンター『スマイル』の  
介護支援専門員  
守のケアマネージャー



元警察官の友人と  
将棋を指したりするのが楽しみだった



守は元警察官で  
交番勤務が長かったため  
地域住民から信頼・  
尊敬される人徳者だった

さく みんな  
上がりんしゃい



ひさえは 20代半ばで  
守と知り合い結婚



若い頃から健康に自信があり  
趣味は釣りや手料理・映画鑑賞・  
写真撮影と多岐にわたった



一児の陽一を出産し  
専業主婦だったが  
陽一が高校に進学すると  
近所でパート勤務を始めた



定年後はひさえを連れて  
旅行したり



ひさえは 数年前の転倒を  
きっかけに腰痛を発症  
関節痛も伴うようになったので  
守も家事を手伝った



陽一は 28歳で  
良子と結婚し 親元を離れ  
翔太が生まれた



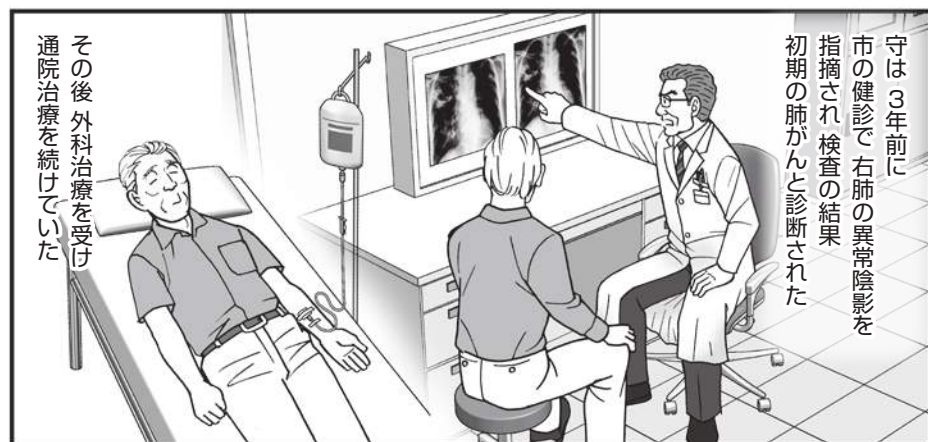
この頃陽一はひさえが  
認知症を発症したのでは...と  
感じたがひさえは  
治療を受けてはいなかった



守とひさえは  
2人暮らしとなったが  
支え合いながら  
仲睦まじく暮らしていた



1年前守が体力の低下で  
歩行が危うくなったと聞き  
陽一は 地元の地域包括支援センターに  
相談し 介護認定を受けることにした

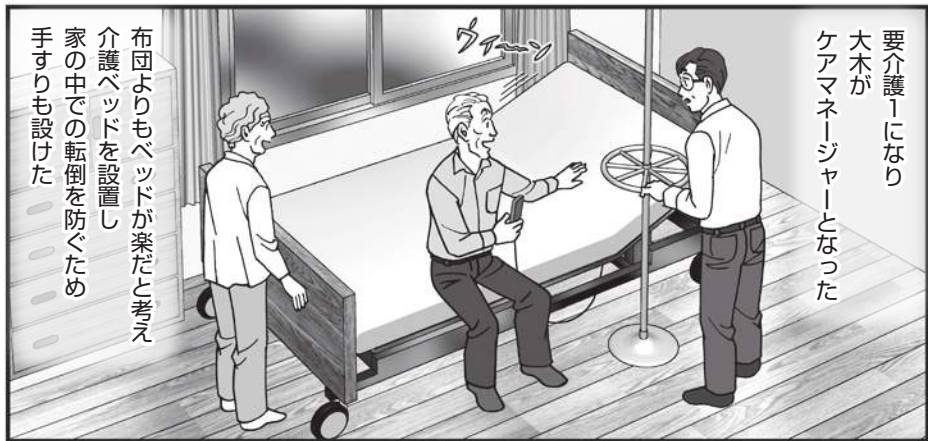


守は 3年前に  
市の健診で 右肺の異常陰影を  
指摘され 検査の結果  
初期の肺がんと診断された

その後外科治療を受け  
通院治療を続けていた

一章：末期がんの診断

ろ……  
6カ……月  
……? ……?



要介護1になり  
大木が  
ケアマネジャーとなった

布団よりもベッドが楽だと考え  
介護ベッドを設置し  
家の中の転倒を防ぐため  
手すりも設けた



通院が難しくなってきたので  
博多総合病院の主治医や  
ソーシャルワーカーとも相談して  
月2回の訪問診療を導入した



ご本人には  
告げられ  
ますか？



余命  
6カ月です

そ……  
そうですか……

精密検査の結果  
対側の肺と肝臓に転移が認められ  
ステージIV(末期がん)……



父からは  
「どんな検査結果が  
出ても隠さず  
話してほしい」と  
言われています



守はその後呼吸苦が頻繁に起き  
がんの進行を怪しんだ  
訪問診療医・川崎の勧めで  
検査入院した

お母様の介護力が落ちていたのでヘルパーに週5日1時間ずつ入ってもらいました

訪問看護も週1回入れましょう

体の観察やリハビリが家でできます



そうしていただくと安心です



敬天愛人



皆さんお世話かけて申し訳なかくですこれからもよろしゅうお願いします

いえこちらこそよろしくお願ひします



ご丁寧な説明ありがとうございます



そうですか...

お義母さんしつかり...



そんな対策はどげんしたら良かとでしょうか?

起りうる体調変化と



詳しいことは当院のソーシャルワーカーや担当のケアマネとよく相談なさってください

従来通りご自宅で過ごしていただきます

わかりました







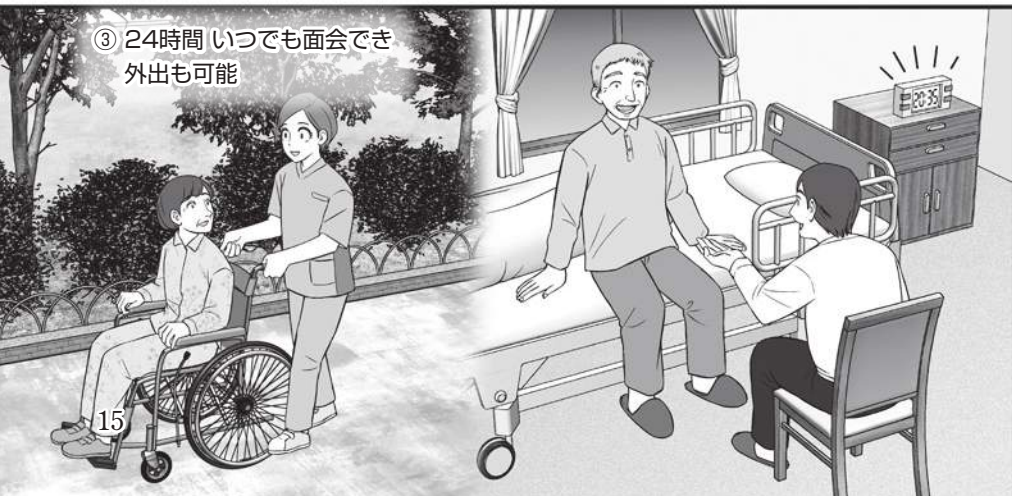
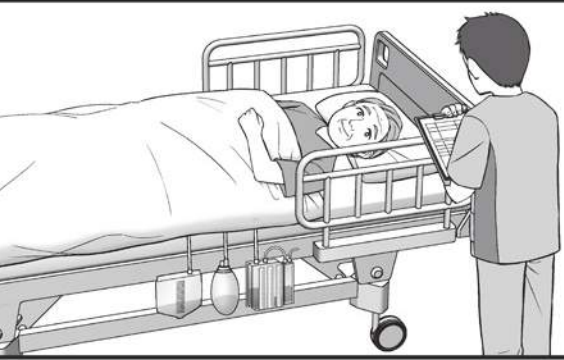
## 二章：ホスピス施設という選択

まずは病院について  
ソーシャルワーカーに  
相談した

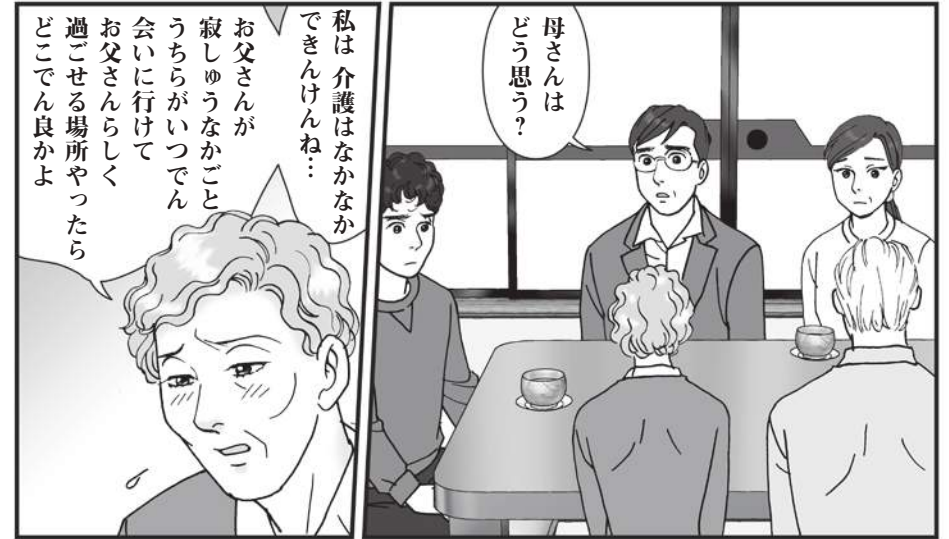


陽一と良子はケアマネの提案と  
守・ひさえの気持ちを受け  
父の過ごす場所として  
①病院 ②老人ホーム ③ホスピス施設  
の情報を集め始めた









ホスピス施設『彩の郷 福岡』



お2人とも  
お義父さんの  
生きてきた歴史や  
大切にしてきたことを  
聴いてくれて優しく  
寄り添ってくれそう

すごく丁寧で  
感じ良かったもんな

対応してくださった  
相談員も  
施設長の看護師も



ここが一番  
良かったわ！

俺も！





『エンディング  
プランニング』  
サービスもね

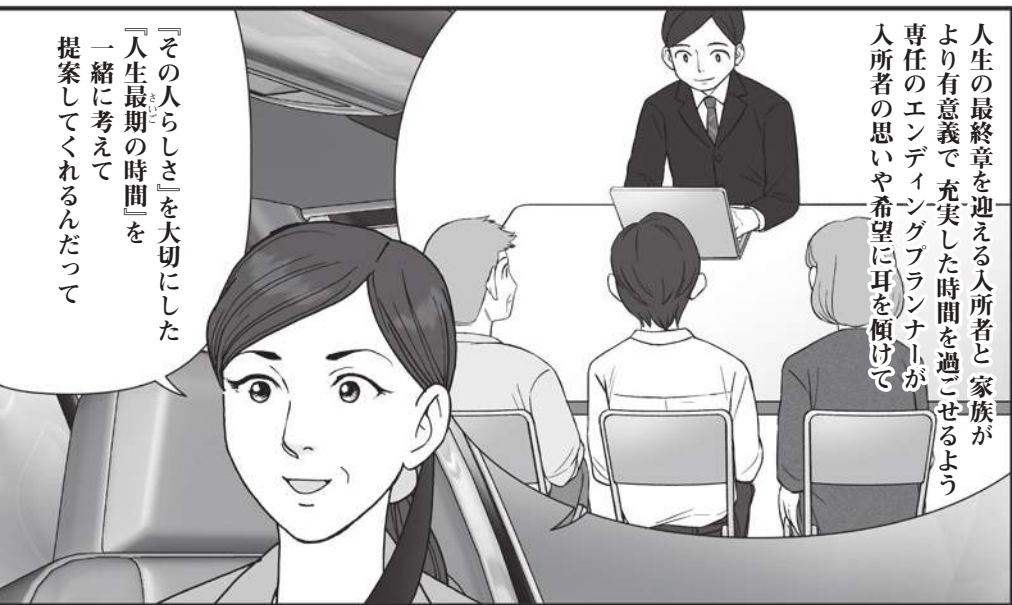
うん  
そんな素敵な  
サービスが  
あるんだねえ…

『その人らしさ』を  
大切にしたい オーダー  
メイドプランだったね



木造2階建てで木の温もりが  
随所に感じられて 落ち着ける  
雰囲気だった

うん  
とても穏やかな空間  
だったわ



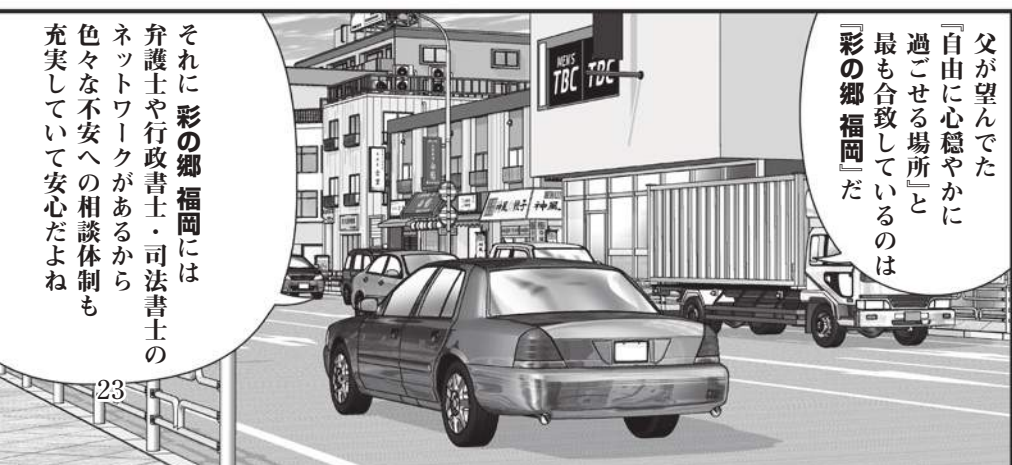
人生の最終章を迎える入所者と家族が  
より有意義で 充実した時間を過ごせるよう  
専任のエンディングプランナーが  
入所者の思いや希望に耳を傾けて

『その人らしさ』を大切にしたい  
『人生最期の時間』を  
一緒に考えて  
提案してくれるらだって



『談話室で他の入所者と  
交流できる』と施設長が  
おっしゃってたわね

地域ボランティア主催の  
イベントも開かれる  
みたいだね



父が望んでいた  
『自由に心穏やかに  
過ごせる場所』と  
最も合致しているのは  
『彩の郷福岡』だ

それに彩の郷福岡には  
弁護士や行政書士・司法書士の  
ネットワークがあるから  
色々な不安への相談体制も  
充実していて安心だよ



家族室も良かったね  
ゆっくり面会して  
泊まることができる

### ◎入所後の様子

～特浴風呂～  
週2回 寝そべったままの楽な姿勢で  
全身をスタッフに洗ってもらう  
体調の良い日には スタッフ介助で  
湯舟につかる

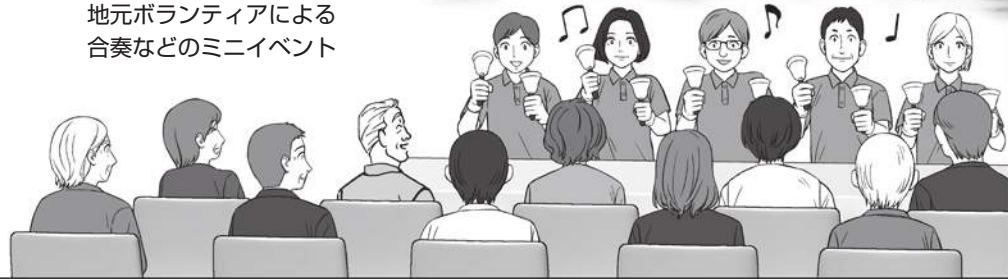


### ◎食堂談話室での歓談

入所仲間と一緒に食事し  
看護師や介護士と日常会話

大型テレビでスポーツ中継を観ながら  
医師から承諾を得たお酒をたしなむ

地元ボランティアによる  
合奏などのミニイベント



### ◎家族室での面会

翔太と将棋——孫の棋力が  
上達していくのが嬉しい

守とひさえが若い頃に観た映画  
『チャップリン』などを  
家族と大型スクリーンで鑑賞

遠方から面会にきた親戚は  
そのまま家族室に泊まる



陽一は彩の郷福岡への入所について  
家族全員の了承を得て  
ケアマネと訪問診療医に伝えた

施設側は本人の状況を確認し  
3日後の入所へと  
円滑に手続きが進んだ

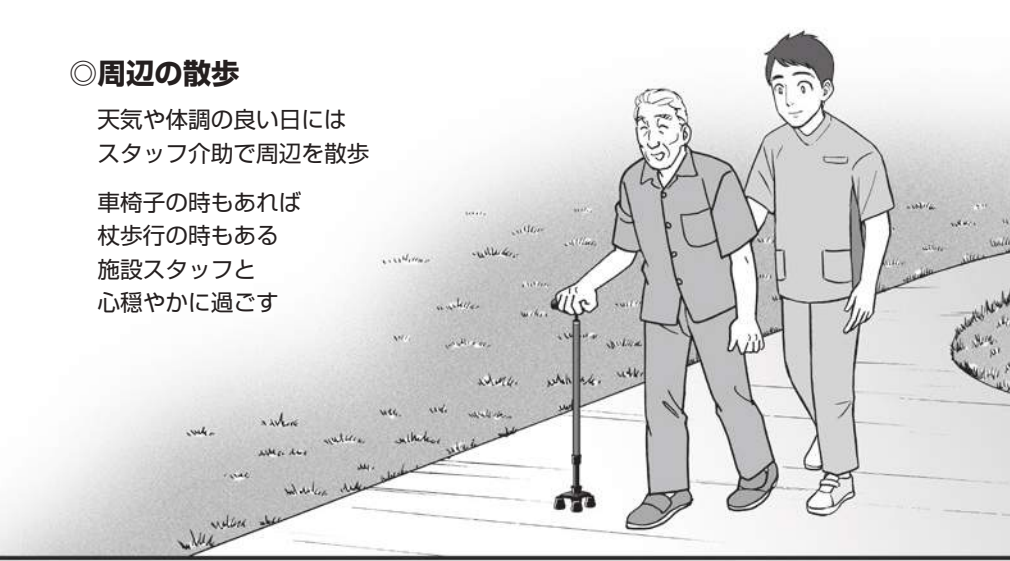


彩の郷福岡のスタッフ全員が  
笑顔で出迎える中入所した

## ◎周辺の散歩

天気や体調の良い日には  
スタッフ介助で周辺を散歩

車椅子の時もあれば  
杖歩行の時もある  
施設スタッフと  
心穏やかに過ごす



終章：穏やかな旅立ち

数カ月後  
呼吸苦に対して  
川崎医師は  
酸素療法を導入した



看護師は  
スタッフとともに  
守の状態を観察し  
医師の指示に応じて  
酸素の流量を調整した

## ◎訪問診療の様子

医師や看護師が  
体調や生活の様子  
(食事・排便・睡眠等)を確認  
不安の解消など 心を支える会話と  
薬の継続・変更の判断もする

ケアマネも時々  
診察に同席して  
状況を共有する



## ◎薬剤師による薬の指導

訪問調剤薬局が 医師から処方された  
薬を届けて説明してくれる

飲み込みにくい薬は 医師と相談して  
飲みやすい薬に変更

施設スタッフは 薬の管理と  
服薬介助してくれる



## ◎看護師によるリハビリ歩行

筋力低下を防ぐため  
廊下を使って歩行訓練



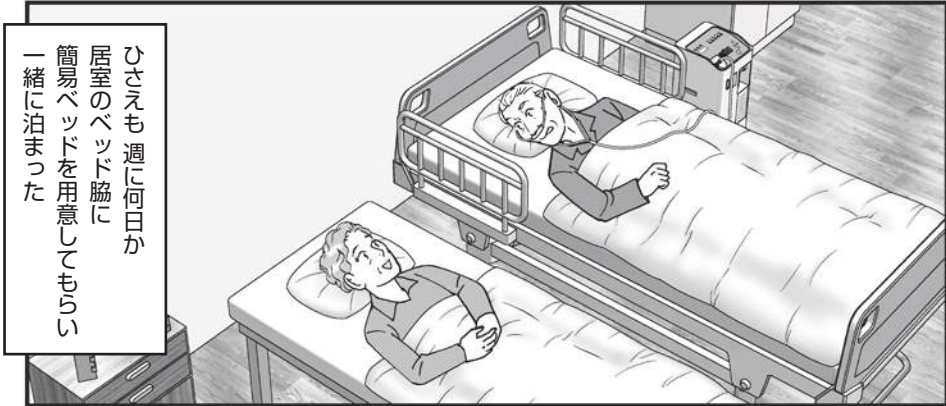


自分が子どもの頃に描いた守の似顔絵を壁に貼って喜ばせました



将棋を指す体力もなくなった守のために会話だけでも楽しんでもらおうとした

へえ、そんなことがあったの？  
お巡りさんって大変な仕事だなあ！



ひさえも週に何日か居室のベッド脇に簡易ベッドを用意してもらい一緒に泊まった



その後川崎医師から――

近いうちに呼吸停止の可能性がありますが心肺蘇生などを望みますか？

苦しまないのであれば自然な形で看取ってほしいです



一方でがんによる痛みを訴えることが増えたため川崎医師は家族と相談の上鎮痛剤の投与を開始した

頻繁な呼吸苦は解消され精神状態も安定した

そうですかそれは良かった！

先生：だいぶん楽になったばい



看護師は痛みの様子を聞き医師の指示に従って鎮痛剤の投与と管理を行ない痛みの解消(緩和ケア)に努めた



この頃になると孫の翔太は仕事が終わると毎日面会に訪れた



1週間後

ご苦労様で  
ございました  
ご丁寧な  
ありがとうございます  
ございます

無事に葬儀が  
終わりました



入室すると  
笑顔で迎えて  
ください  
ました

お父様は  
スタッフ全員の  
人気者でした



たくさんの人に  
見送られてきつと  
父は喜んでます

交番勤務時代の  
地元の方々も  
多くご参列いただき  
父とお別れして  
くださいました



お孫さんが描かれた  
似顔絵を自慢して  
おられましたよ

ご家族が  
来られた日は  
帰られた後も  
とても嬉しそうな  
お顔だったのが  
忘れられません

リハビリも  
一生懸命でした

痛みもあつたと  
思いますが  
本当によく頑張つて  
おられましたよ



心の準備をして  
おいてください

お父さんが  
会いたがっている  
方がいらつしやれば  
早めにご連絡して  
ください

はい

数日後 危篤状態に陥った守は  
家族や友人に囲まれていた



その後守は  
皆が見守る中  
静かに息を引き取り  
旅立っていった

宣告された  
余命よりも長く  
最期の時間を  
立派に過ごされ  
ました

安らかな  
いい  
お顔です



一人ひとりが  
守に声をかけ  
手を握った



陽一は 医師や施設スタッフに  
感謝の言葉を述べ  
守の穏やかな顔をそっと撫でた

番外：エンディングプラン

彩の郷福岡に入所して間もなく  
陽一は施設見学の際に聞いていた  
『エンディングプランニング』サービスについて  
エンディングプランナー・岡垣と  
話し合った



お父様がまだ  
お体が動くうちに  
やりたいことを  
聞いて  
お父様らしい  
オーダーメイド  
プランを  
つくりましょう



岡垣は守の  
希望を聞き 翌日に  
企画を提案した

それは守と  
家族のための5つの  
エンディングプラン

①『ありがとう出版』プログラム

専属ライターが守や家族に  
直接インタビューして  
大切な写真や手紙を一緒に編集し  
人生の思い出を鮮やかに表現

出来上がった書籍を  
家族や友人に読んでもらい  
感謝を伝える



人生の最終章を  
この施設で過ごす  
ことができても父も  
私たち家族も心から  
感謝しています

ありがとうございます  
ございました

こちらこそ  
ありがとうございます  
ございました



父さん  
お疲れ様でした  
今まで  
ありがとうございます

彩の郷

この物語はここで  
一幕を閉じるが……

### ⑤特別な音楽プラン

守が好きな曲や  
カラオケの得意曲を

プロの音楽家が生演奏  
独自の『人生サウンドトラック』  
も制作できる



### ②『ありがとう晩餐会』プラン

プロの料理人を招き  
守が好む料理や  
特別メニューを提供

『思い出の味』や  
『家族全員で楽しむ料理』を  
注文できる



### ③思い出の地巡り

車椅子や車での移動を支援し  
思い出の場所を訪ねるツアー

育った町・初デートの場所・  
家族旅行の思い出の地など



### ④メモリアルアートの作成

人生や価値観を  
主題にした芸術作品を制作

絵画や彫刻・写真アルバムなど  
専門アーティストとの  
共作も可能



陽一は守の細かい願望を  
岡垣に伝えて守らしい  
オリジナル企画をつくった

全部素晴らしいかね！  
わしは『ありがとう出版』と  
『思い出の地巡り』の  
2つをお願いしたからです

警察官仲間や後輩・地域の  
人々から多くの人に  
慕われていた守を心を込めて  
見送る場や演出を考えた

不安だった葬儀のことも  
相談した



守は  
満面の笑みで  
参加者に感謝の  
言葉を伝えた

『ありがとう出版』

「感謝の書籍」を  
完成させた



岡垣はプロの編集者による取材と  
ひさえから預かった  
思い出の写真の整理を  
陽一夫妻と一緒にしない

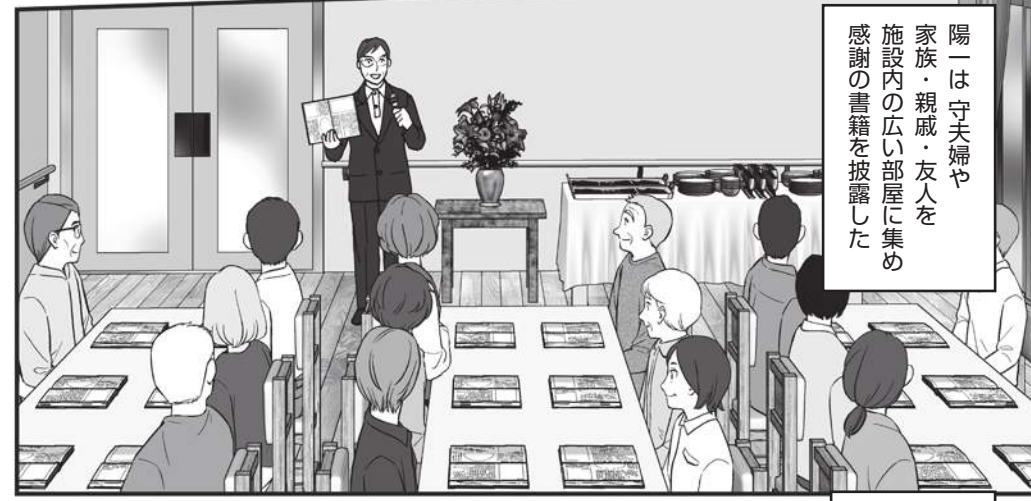


思い出の地巡り

岡垣は守とひさえの  
要望を聞き 訪問診療医・  
川崎の同意を得て  
1泊2日の旅行も企画した



行き先は 20年前  
翔太の幼少期に  
家族5人で訪れた  
熊本に決めた

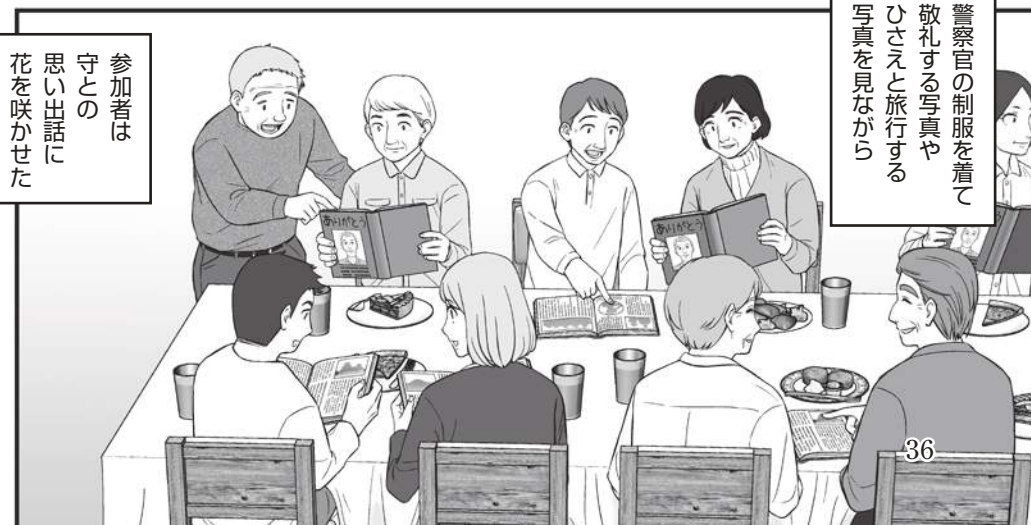


陽一は 守夫婦や  
家族・親戚・友人を  
施設内の広い部屋に集め  
感謝の書籍を披露した



岡垣は川崎医師に  
「診療情報提供書」を  
作成してもらい  
熊本市内の病院に  
もしもの際に  
受け入れてくれるよう  
事前の手配を依頼した

参加者は  
守との  
思い出話に  
花を咲かせた

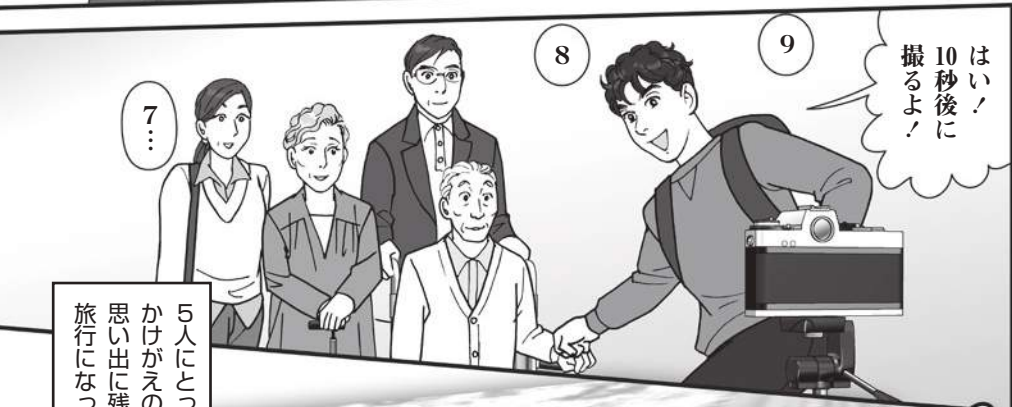


警察官の制服を着て  
敬礼する写真や  
ひさえと旅行する  
写真を見ながら



その姿がとても  
楽しそうだった

守は特に疲れた様子もなく  
以前使っていたカメラで  
家族や景色の写真を撮った



7?

8

9

はい！  
10秒後に  
撮るよ！

5人にとって  
かけがえのない  
思い出に残る  
旅行になった



完



熊本城や阿蘇山を巡り  
黒川温泉で  
家族5人そろって宿泊した



旅行中翔太は懐かしさで  
大はしゃぎしながらも  
ずっと守の手を引き  
車椅子を押し役目を担った

## －ホスピス施設の特長－

### ■対象となる患者

- ・末期がん患者やパーキンソン病などの神経難病患者
- ・継続的な医療管理が必要な方
- ・自宅での療養や介護体制が困難な方
- ・病院ではなく、自分らしい生活空間で過ごしたい方

### ■医療・看護・介護体制

- ・看護師や介護士が施設内で24時間対応
- ・現在の訪問診療医が継続して診察、24時間往診
- ・緩和ケアで苦痛を除去、看取りまで対応

### ■施設内の生活

- ・個室で自由に過ごせる
- ・24時間365日いつでも面会できる
- ・家族が滞在できる場所があり、家族の宿泊も可能
- ・外出・外泊も認める

### ■費用目安

- ・医療保険や介護保険を利用できる
- ・高額療養費制度も使える
- ・緩和ケア病床よりも安い傾向

### まとめ

- ・病院の医療看護体制と家にいるような自由度を両立できる
- ・在宅は不安で負担が大きいと感じ、病院を望まない方に最適

発行者：ディグニティライフ株式会社

本冊子に関するお問い合わせ

：info@dignity-life.com

：092-717-3762



ホスピス施設  
「彩の郷 福岡」



士業への無料相談  
「Base One Hub」

構成：谷川 桜太郎

2026年4月30日 第1版

まんが：高下 知代／谷川 知子

発行所：(株)美健ガイド社©

印刷製本：まつざき印刷(株)

落丁本・乱丁本はお取り替えます。禁無断転載。

2609(674)

## －終末期患者が過ごす場所－

### ■福岡市の終末期患者数

- ①がん死亡者数は年間4,000人ほどで年々増加。  
高齢者が増える影響で徐々に増加していく見通し。
- ②市内に神経難病患者が約3,300人おり、  
うち重症が830人。  
同じく増加傾向にある。

### ■福岡市の終末期患者の死亡場所

- ①以前は病院での死亡が多かったが、  
年々減少している。  
市内に緩和ケア病床は350床程度しかなく、  
今後も増加は見込みにくい。
- ②自宅での死亡者数はやや増加。  
高齢単身世帯や高齢2人世帯の増加による  
介護の難しさから自宅での死亡はやや減る見込み。
- ③施設（ホスピス）での死亡者数は年々増加。  
病院・自宅からの受け皿になっていく見通し。  
ただし、一般の老人ホームは、  
がん末期患者は看護体制の不安から敬遠されがち。  
ホスピス施設の認知度や需要が高まると予想される。

※福岡市の保健統計調査などより